

科目	「問3. 授業を受けた上で、自ら関連項目について文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した。」及び「問15. あなたはこの授業に毎回出席しましたか」から、学生の受講態度についてどのようにお考えですか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	学生の受講態度
F	(無記入)	良い
F	学生は出席率も授業の受講態度もよく、熱心に授業に取り組みました。自ら関連項目について調査した学生があまりいなかったのは、課題として課さなかったこともあるでしょうが、積極的に取り組んだ学生を評価する方法を提示するなど工夫すればよかったかもしれません。	良い
F	英語Ⅰでは個人発表の機会を設けたことで調査の機会を与えることができた。しかしながら自ら調べてきた学生は限定的で、課題をこなすだけの学生のみが残念であった。コミュニケーションⅡでは、プレゼンテーションのための材料となるデータをインターネットなどから調査したことを生かす学生が多かった。態度はどのクラスも問題はないが、担当学科による英語学習への積極性については、英語科や国際の学生の関心の高さや他学科では大きな差があると感じている。	良い
F	学生が授業にさらに集中できるよう多様でユニークなアプローチを取り入れたい。	良い
F	教科書にはインターネットで調べる課題がありましたが、各自に任せてあり確認はしませんでしたので、どれだけの学生達が取り組んでいたかは把握できていません。出席状況・受講態度と自ら調べることの関連性は薄いように感じられ、取り組んでいた学生は少ないと感じています。今後は上手く活用できるように改善します。	良い
F	どの学科の学生も興味深く学習できるように今後も授業の内容等、学生全員にとって何が適切であるかを考えていきたい。学生の出席率は非常に良かったので、特に問題はなかった。また、学生の受講態度は、積極的に課題を提出したり、ホワイトボードに問題の答えを記入しにきたりしていたので、非常に好ましく感じられた。	普通
F	(無記入)	良い
F	(無記入)	普通
F	問3については、会話練習を主とした語学の授業であるため、学生が自ら調査する必要性はなかったと思われる。しかし、あえて改善案を挙げるとすれば、各自が興味を持ったテーマについて、日本の事情と比較してドイツ語で発表するという課題を与えてもよいと思う。	良い
F	特になし	普通
F	未習外国語の初級においては、問2や問3のような設問自体が成立しにくく、語学授業には不向きな設問なので学生には答えにくかったと思われる。身近にあるフランス語へ興味から入ってゆく方法を考えている。	良い
F	(無記入)	良い
F	(無記入)	非常に良い
F	勉強中に疑問又は分からないことがありましたら、必ず質問することはとても効果的な勉強方法だということを常に学生に周知します。	良い

F	女子学生の私語などが目立ちました。今後の改善案として、授業中の席を指定したいと思いました。	普通
F	特に改善を必要とはしていないと思う。	良い
F	ほとんどの学生が興味・関心を持ち、出席率も良かったので、とてもうれしく思う。	良い
F	出席率はまずまずだった。	良い
F	特にない	(無記入)
F	(無記入)	良い
F	英語を使うスキルを身につけることを主眼とした授業のため、新たな思考の展開は求めているが、さらなるスキルの習得に焦点を当てた授業を心掛けたいと思っています。	良い
F	問3に関しては、グループ発表に関連する項目であるが、グループで役割が偏っていたように思われる。今後は、グループ全員が基本的な作業に参加すべく、配慮したい。	普通
F	十分に練った自作の教科書を使っているのですが、インターネットなどの調査は必要ないと思っているが、予習・復習をしているかどうかの確認をするような、小テスト的なものを実施した方が良かったかもしれない。その点の改善をしたいと思う。	普通
F	実際に話すことがメインの授業なので、その場で言葉を絞り出すことに重点を置きすぎてしまった。適応力を養うためには準備が必要であること、さらに細かく説明したい。	(無記入)
F	(無記入)	良い

科目	「問10. この授業の教育目標を達成できたと思いますか」にかかわって、この授業のために設定された教育目標が、どの程度達成できましたか。選択肢からお選びください。また、改善案があればお書きください。	目標の達成度
F	講義を受けたことで「TOEICの点数が上がる」あるいは「英語力が伸びる」と実感できるように、学期に何度か小テストをすると良いかもしれない。	普通
F	現代社会に対する知識、関心を深めることと、やや難しい単語の意味を理解し、自ら使えるようにすることが目標でした。単にテキストのエッセイを読むことに終わってしまいましたが、それについての意見交換などをすれば、より深く考えることにつながったと思います。	普通
F	この授業の教育目標は達成されたが、英語 I の単位修得に関わる授業外のTOEIC得点との兼ね合いについては今後の自分の授業では課題となると考える。学生の希望にもあったので、今後英語 I ではTOEIC対策の比重を多くする予定である。	十分達成できた
F	英語の音声(発音)に対する認識を深めてもらうことができましたと思います。これを契機に学生各自が適切な英語の発音でもって発話されることを期待いたします。今後授業内では、学生一人一人の発音をチェックする機会をできるだけ多く設けたいと思います。	達成できた
F	授業目標は「中級レベルの総合的英語力を身に付ける」と設定しました。これは教科書出版会社の提示したレベルで、学習者が教科書の課題に取り組み、身に付けることができれば達成できるというレベルです。学期末に行った試験結果から見ると、真面目に取り組んでいた学生は達成できています。	普通
F	クラス内の学生の英語能力レベルにギャップが見られるため、どのレベルの学生にとっても興味深く理解し易い授業が実施できるよう適切な教材を選んだりしながら、今後も努力していきたい。学科によって興味を持っている分野が異なるので、全員が積極的に英語を様々な視点から学習できるよう対応していきたい。	普通
F	(無記入)	達成できた
F	(無記入)	達成しきれなかった
F	この授業では、四技能(「聞く」「話す」「書く」「読む」)を総合的にバランスよく向上することを目標とした。アンケートを見ると、参加者の半数以上は目標をある程度達成できたと感じていることがわかるが、「書く」「読む」という練習にもう少し時間をあてることができればと感じた。週に1回の授業では、全てを行うことは時間的に少し無理があるかもしれない。	達成できた
F	特になし	普通
F	クラスによって若干理解度に差があるので、その点を踏まえて授業を進めていきたい。日常生活で目に触れるフランス語あるいはフランス語らしき言語を拾い集めて発表させる方法も検討している。	達成できた
F	(無記入)	普通
F	(無記入)	達成できた
F	宿題は勉強の一部でありながら、成績評価の一部でもありますので、必ず宿題を時間のとおりに終えて、そして提出することをもっと厳しく学生に要求します。	達成できた

F	ほとんどの学生が教科書の内容を理解でき、当初の授業目標を達成することが出来たと思われます。	達成できた
F	語学の授業で50人は多すぎる。その中では十分に目標を達成できたと思う。さらなる充実をはかるならば、まず人数減をすべきだと思うが、現実的ではないので、現状維持を心がけたい。	十分達成できた
F	この授業でしか顔を合わせない学生同士がコミュニケーションをとる、という点でも、ポルトガル語での会話中心の授業は効果的だったと思う。しかし、文法についてやりきれず、Ⅲに回したので、達成できたともできなかったともいえない。	普通
F	人数が多く、全ての学生の取り組みの様子を把握しきれなかった。	普通
F	特にない	(無記入)
F	学生から直接意見を聞く機会を設けるなどしたい。	達成できた
F	この授業の目標は、スキル習得でそのためには、授業外学習時間が大切になります。授業外での課題内容が難しかったのもありますが、十分には達成されていないため、課題を行わないと授業に参加できない形式等にする方法も考えています。	普通
F	ほとんどのグループが活発に会話練習に取り組んでいたが、ごく一部そうでないグループがあった。事前の表現練習の時間を増やすなど工夫したい。	普通
F	大半の学生が「ややそう思う」の回答をしているので、Fの結果としては十分ではないかと思うが、「強くそう思う」の回答がもう少し増えるよう、上記したような小テストの実施などをしていきたい。	達成できた
F	話すことに参加できた学生が多かったようなので、いい結果が見られた。より話すことへの積極性を出せるようさらに布石をおいていきたい。	達成できた
F	(無記入)	達成できた

科目	「問11. 授業の難易度」、「問12. 一回当たりで扱われる授業内容の量」、及び「問13. この授業のための週当たりの学習時間」に対する学生による評価をみて、どのように考えられますか。また、改善案があればお書きください。
F	授業の難易度や内容量は適切であったと考える。授業のための家庭学習時間について、「他の授業と比べて多すぎる」との意見もあるが、英語力を伸ばすには必要であると考えます。
F	「授業の難易度、授業内容の量は、ちょうどよい」と感じている学生が半数を超えていました。ただ、「授業のための学習時間が1時間以内」が半数を超えていたのは、高校までの英語学習にかけける時間と比較して少なすぎると感じます。 テキスト以外の英語にも触れる時間を増やし、自信を持って英語学習を続けていってほしいと思います。
F	英語Ⅰのクラス編成の問題となるが、英語科と理科の学生が同クラスになっているクラスのため、学生によって、テキストや授業の内容の難易度が違った。今期は特に差を感じた。週当たりの学習時間も少ないことから、少し難しいと感じるテキストの方が学習意欲がわくかもしれないので次期のテキストを再検討したい。逆に、コミュニケーションⅡのクラスのプレゼンテーションを行うことがあまり学生の負担になりすぎないように工夫したこともあり、難しいと感じる学生が少なかったことは目標設定どおりで満足している。プレゼン発表のために十分な準備を行ってくる学生も多くいた。もう少し学習時間に反映してもらいたい。
F	常に受講生の視点に立つように努め、授業内容にメリハリを持たせるよういろいろと工夫している。 今後も効果的な授業を展開できるよう学生とのコミュニケーションを大切にしながら、様々なアイデアを取り入れたいと考えております。
F	授業の難易度、一回当たりの量においては、ちょうどいいと回答してくれた数字が一番多かったもので、良かったと思っています。ただ語学を習得するという観点から考えると、一回当たりの量は少ないと思います。予習前提の授業を行うことができれば、もっとたくさん扱うことができると思いますが、週当たりの学習時間(大多数が1時間以内と回答)から判断すると難しい状況です。これは1個人の教員の改善では難しく、大学全体で取り組む必要があると思います。
F	問11:「ちょうどいい」という学生が過半数以上であるので、今後も学生の状況を把握しながら授業を進めていきたい。 問12:「ちょうどいい」という学生が過半数以上であるので、今後も学生の状況を把握しながら授業を進めていきたい。 問13:「1～2時間」という学生が過半数以上であるので、英語を専門としない学科の学生が授業外でも英語学習の機会を持つ事は良い事であると考えられる。学生が授業外でも自主的に英語学習に取り組めるよう今後も課題を考えていきたい。
F	授業の難易度については、「ちょうどいい」と答えた学生と、「易しい」と答えた学生の割合が、ほぼ半々であった。そのため次回以降は、現在のレベルをベースに、チャレンジングな課題を増やすなどして、より多くの学生の学力に合った授業を心掛けていきたい。授業内容の量に関しては、ほぼ9割の学生が「ちょうどいい」と答えているため、今回の分量を引き続き維持していきたいと思う。学生たちの週当たりの学習時間は、語学の授業としては妥当な範囲かと思われる。予習やe-learning等の授業外学習を評価に加えることによって、学生の自宅学習時間の増加を図ってきたが、今後もこのような方針は続けていきたい。

F	1回当たりの授業内容の量はちょうど良いとなっている一方で、週当たりの授業以外での学習時間は1時間以内と答える学生が半数以上を占めた。この結果からさらに授業内容を多くし、難易度を高くすればいいか、というところではない。 というのは、授業時間以外にも学習するきっかけと提供しようと、1時間ほどで学習できる課題を毎週出したが、大多数の学生はその課題をやってこなかった。そのため課題をこなす時間を授業時間内に設けざるを得なくなったのである。内容が少ないか簡単であれば自宅で学習などしないであろうし、内容が多く難しければ早い段階で課題などしなくなり、さらに出席もなくなって簡単に学習を放棄してしまう。内容の量、質をどうするかは非常に難しい問題である。
F	アンケート結果を見ると、「授業の難易度」、「授業内容の量」とともに「ちょうどよい」と考えている割合が多く、問題はなかったと考えられる。また学習時間に関しては、第2外国語であることを考慮し、30分程度で行える宿題を課すようにした。従って、1時間以内と答えた学生の割合は多く、負担にならず学習できたのではないか。
F	「易しい」と「少ない」をチェックした学生がいませんので、ちょうど良いレベルだと思います。
F	学習時間の確保のために定期的にレポートを課し、提出させる方法を検討中である。
F	前半に比べてやや後半が難易度が高く感じられたかもしれない。授業内容の量に関してはちょうどよい、となっているので、中身の問題であろうか。内容に合うような課題を課したとしてもこれを消化しきれんかが今度は問題となってくる。なるべく易しい復習をその次の時間までにもっとさせる必要があるようだ。
F	問11. 学生の6割が「難しい」と回答しました。2割と2割は「ちょうどいい」と「難しすぎる」と回答しました。間違いなく、外国語の勉強をする事は簡単ではありません、少しでも動力は必要です。 残念ながら、問13. 学生の6割週当たりの学習時間は1時間以内と回答しました。授業内容の難しさを乗り越える方法を見つかりませんでした。 26年度では、このクラスの前期の担当教員と後期の担当教員は同じ教員でなかったため、後期の外国人担当者についての評価は厳しい。来年度は、全クラスでは、同じ教員はフランス語Ⅰとフランス語Ⅱを担当する。
F	語学の授業では30人以下の学生数が望ましいといえよう。人数が多いと授業を進めるときも大変ですし、学生の理解度の妨げにもなると思います。 同じ授業内容なのですが、1時限の少人数の生徒のほとんどの人が難易度が「ちょうどいい」と答えたのに対して、2時限の少し大人数のクラスの生徒は4割を超える人が「難しい」と答えていることから分かります。
F	難易度、内容量ともに難しい、多いという回答傾向が強いものの、週あたりの学習時間は1時間以内ないし1～2時間がほとんどと理想的であるため、問題ないと思う。
F	私が考えていた講義の内容が、学生たちにも負担にならないような回答が得られてよかった。学習時間も1時間前後で十分だと思う。
F	内容が易しい、ちょうどいいと答えた学生が大半だったので、もう少しレベルアップすれば、学習時間も伸びたかもしれない。
F	一つの授業はレベルがちょうど良かったそうですが、他の授業はちょっと難しそうでした。今度クラスごとにレベルに合わせた方がいいと思います。
F	難易度と授業内容の量ともに「ちょうどいい」と回答した学生が多数を占めていることから、特に問題ないと思われる。
F	難易度については、一つのクラスでは、大多数の受講生のレベルを基準としているため、下位のレベルの受講者には難しいかもしれません。また、スキル習得を目標としている授業ため、授業外での学習が大切になりますが、半数ほどの受講者の週当たりの学習時間が1時間以内となっていますので、さらに学習時間をあげるように課題などを増やしなどの工夫をしていきたいと思っています。

F	全体的に学習時間が少ないので、課題を増やすなど、授業外の学習時間の重要性を促したい。
F	大半が「ちょうどいい」の回答を寄せているので、このレベルを維持したい。
F	ちょうどいい、という答えが8割なのでこのまま続行しようと思います。
F	<p>授業の難易度については、「ちょうどいい」と答えた学生が大半を占めていたため、基本的には、今回のレベルを次回以降も維持してよいかと思われる。但し、「難しい」と回答した学生も数名いるので、必要に応じてヒントを与えたり、解説を丁寧にしたりするなど、理解を促す工夫をしていきたい。「授業内容の量」は、ほぼ全員の学生が「ちょうどいい」と回答しており、今後もこの分量で継続していく方針である。「週当たりの学習時間」は、「1時間以内」が7割を占めており、語学の授業に対する学習時間としては、もう少し増やしたいところである。今回は、予習の有無を評価に含めたが、その度合いについては学生の自由裁量に任せる部分が大きかったので、義務的にやらなければならない項目を増やすなど、改善策を検討していきたい。</p>

科目	どのような基準で学業成績の結果を出されましたか。提出された成績評価も踏まえてご記入ください。
F	授業への参加度や提出課題20%、TOEICの得点20%、e-learningとワークシート20%、試験40%の配点で、総合的に評価した。
F	定期試験60%、学期の途中で2度行った単語テスト20%、7月のTOEICの結果10%、授業参加度10%で評価しました。定期試験の前に行われるTOEICでは、350点の壁が一つの障壁になった学生もいましたが、期限内に課題をこなした上でテキストに関する授業での定期試験、そしてTOEICの再テストと、学習する機会は十分にあったと思います。
F	英語Ⅰ、英語コミュニケーションⅡのどちらも、ルーブリックを作成し、評価規準についてどのようにしたら基準ABCがつき点数化されるのかオリエンテーション時に配布し説明して授業を行った。定期試験、最終発表以外に毎時間でも評価され多方面から成績結果がでるよう示した。
F	出席回数、小テストの結果、英文エッセイの評価、学期末試験のスコア、受講生の英語の発音、授業への貢献度などを考慮しつつ総合的に判断いたしました。
F	授業中の課題への取り組み姿勢、提出物、定期試験と、大学側の決定事項であるTOEIC試験での350点以上取得という条件で評価しました。
F	英語Ⅰの授業の規制に基づき、TOEIC試験で350点以上の学生はクラス評価と期末レポートを含めて採点した。TOEIC試験で350点以下の学生は、TOEIC補習試験で合格の学生は授業及び期末レポートの評価がいずれもS、A、B、Cの場合、英語Ⅰの授業規制に従い評価はCとなった。TOEIC補習試験で不合格の学生は、英語Ⅰの授業規制に従い評価はDとなった。
F	平常点25%、予習点25%、自主学習点25%、期末試験25%の割合で、4つの観点から総合的に評価した。このうち予習点とは、毎回予習をすることによって学生が得られる点数で、その有無については、授業開始時の各学生のテキスト・ノートチェック、及び授業時間中の応答の仕方によって確認した。自主学習点は、e-learningの課題達成度に応じて得られる点数である。提出した成績評価については、上記の基準を満たす学生が多かったため、S・A・Bが大半であった。但し当科目では、教員の基準とは別に、本学が定める基準(TOEICスコア350点以上、あるいは補習テスト合格)にも従う必要があったため、それが原因でCやDの評価を出さざるを得ないケースもあった。
F	授業の最後に、その回の授業で行った内容に関する課題を提出してもらいそれを採点したものと、小テスト、定期試験で評価した。
F	毎回の小テスト50%、学期最後に行うプレゼンテーション(独創性・発音・内容)20%、平常点(毎回ペア・グループで課題)30%を総合的に評価した。
F	特になし
F	定期試験の評点による。初級語学の試験では主観的判断の入る余地はないので、点数は明快である。
F	提出された課題30点と期末テストの点が70点。計100点満点。平均点を出し、平均点の半分に満たない者を不可とした。後は点数に従ってS+A10名、Bが25名、Cを10名ほどとした。
F	宿題と小テスト40%、定期試験50%、授業参加度10%による。
F	シラバスに書いた方法で成績を評価し、提出しました。つまり成績の評価は平常点数40%(学習態度、平時練習、宿題と小テスト)と期末テスト点数60%を合せて総合的に行う。
F	1.小テストの成績+期末テストの成績 2.普段の授業参加の積極性 3.出席率

F	小テスト(毎回授業開始時に行う前回の復習テスト)40%と、期末テスト60%の合算で行う。
F	小テスト、会話のテストやグループごとの発表をもとに成績を出した。出席率が悪かったり、授業態度が悪い場合は、評価を下げますが、そのような学生はほとんどいなかった。
F	期末試験の結果が主だが、それに加えて授業中に書かせた課題、テキストの問題の提出なども加味して結果を出した。
F	この授業はスピーキングテストが大事です。来年も同じテストをします。
F	3回の筆記試験の合計点と出席状況。
F	専攻別によるクラス編成のため、英語力差が大きいクラスでは、評価項目と割合は同じでも、到達度の基準を調整しています。
F	1. 定期試験30% 2. 出席、授業参加度25% 3. 発表30% 4. 課題15%
F	全体評価と相対評価を組み合わせ、結果的には5%程度がS、15%程度がA、45%程度がB、35%程度がCとなるようにした。またこの基準にもかかわらず、極端に成績が低い場合(例えば正答率が20%程度の場合)はやむなくDをつけるようにした。
F	複数の実技テストで、より多くのコミュニケーションをはかったか、また相手の理解を促すための努力工夫をしたかを確認し、その上でペーパーテストにより、多くのことを英語で伝えようとしたかを重視した。その結果、平均以上の評価が出た。
F	平常点25%、予習点25%、期末試験50%の割合で、3つの観点から総合的に評価した。このうち予習点とは、毎回予習をすることによって学生が得られる点数で、その有無については、授業開始時の各学生のテキスト・ノートチェック、及び授業時間中の応答の仕方によって確認した。提出した成績評価は、上記の基準を十分に満たす学生が大半であったため、S・Aが多く、B・Cが若干名であった。

科目	授業改善について、独自に工夫されていることについてお書きください。
F	* 分かり易い講義にするために、説明するときにパワーポイントスライドを用意している。 * 学生が課題に取り組みやすいように、課題用のワークシートを作成している。 * TOEICの得点向上のための情報を、教科書だけでなく、様々な本、専門家などから集めている。
F	学生から授業目標にそった独自のアンケートを期末に実施し、自己分析して次期のテキスト選択や活動内容の見直しなどに生かしている。
F	教科書、補助教材などを常に最新ののものにし、授業に新鮮味を持たせるよう心掛けている。
F	教室内のAVシステムをもっと使いやすくして頂ければ助かります。 プロジェクターとスクリーンが「ボタン一つの操作で」同時に動作するよう[同期するよう]になれば授業がよりスムーズに行えます。
F	授業では教科書の他に、各章ごとにプリントを使用し、学生達に取り組んでもらっています。全部で10~11枚に及びます。半年分の学生達の学習経緯を読み取ることができ、成績評価の一基準でもあり、自分自身の改善の一基準としても使用し、次回の改善につなげています。
F	授業では、ポイント・システムを導入して学生がモチベーションを高めることができるよう工夫している。学生の 毎回の授業でのポイントは、学生履修名簿に記録して、学期末に学生が各自の獲得ポイントが確認できるようにしている。
F	毎年、なるべく多くの授業で、本学が実施する「授業改善のためのアンケート」とは別に、最終日に学生にコメントを書いてもらうようにしている。記述欄を大きく取れるので、授業の長所や短所、各自の授業への取り組み方など詳しく具体的に書いてもらうことができ、非常に参考になることが多い。そしてその内容を可能な限り、次学期以降の授業へ反映させるよう心掛けている。
F	授業時間を3つに分けて最初の30分を前回の復習(文法、語彙)、次の30分をその授業で扱う会話表現や文章表現の学習、そして最後の30分を文法の解説、問題演習と授業最後の課題を行う時間とした。こうすることでできるだけ授業時間内でドイツ語を練習する時間を増やした。
F	第1限の授業のためか、当初遅刻をするものが多かったが、毎回授業の最初に小テスト(前回授業において学習した項目の理解度を確認するため)を実施したところ、遅刻者が少なくなったように感じた。(参加者にとって)専門科目ではないこともあり、モチベーションに非常に差があると感じたため、できるだけペア・グループワークを増やし、各自が積極的に作業に取り組むよう工夫した。その言語が話されている国の文化事情を知ること、モチベーションの向上に役立つと考え、関連するDVDを視聴した。
F	「教員とのコミュニケーション」は他の外国語科目の授業と比べると、「そう思う」の回答は少ないです。今度に改革について考えています。
F	机間授業を通じて学生との意思疎通を図りながら、個々の質問に丁寧に答えることによって、学生の理解を深めるようきめ細かな授業を行うよう努めている。
F	照明、空調などの環境を整えること。
F	1. 何度も復習を重ねながら、また授業のペースを調整しながら、なるべくほとんどの人が、当初設定した授業目標を達成するよう工夫しました。 2. 文法を重視し、1年間の中国語の授業が終わっても、自ら自習できる力を備えさせる工夫を行いました。

F	小テストの出題方法を学生の意見を聞いて改善した。(全文記述から穴埋め式にした)教科書だけでなく、独自に作成したプリントを配布してすすめている。またなるべく会話する時間をもつために。会話練習をとりいれている。
F	学生が受け身にならないで、自分から参加するような授業を心がけ、会話や発表を中心にしたリ、ブラジル人の留学生の話の聞いたり、ブラジル料理のお弁当を食べるなどの工夫をした。
F	常に学生のレベルや理解度に合わせている。レベルが多岐に亘る場合は、標準に合わせて、できる学生に対して課題を与えるなどしている。
F	特にない
F	常によりよい教材を見つける努力をしている。
F	コミュニケーション能力育成の授業になりますと、テキストの内容自体が簡単になり、授業外学習時間が少なる傾向があります。そのため、e-learningによる授業外学習の課題を設定しています。
F	1. グループ・アクティビティ(毎回の授業; 余分な緊張を感じさせない適度な人数): ペアあるいは小グループで覚えた英語表現を活用し意見交換することを通して、英語でのコミュニケーション能力を上達させる。 2. グループ発表(学期末; 自分たちの調査結果と意見を英語で発表): グループでテーマを決め、それについて文献やインターネットで調査し、原稿を英語でまとめ、英語で発表する。半期の学習成果をクラスで共有する機会となる。
F	独自の英語習得法、「英語の裏ワザ」を用いて、オリジナルな授業をすることを心がけている。
F	実際に用意してきたことを行いつつ、対面する学生の反応を見ながら、随所改善を試みた。
F	毎年、なるべく多くの授業で、本学が実施する「授業改善のためのアンケート」とは別に、最終日に学生にコメントを書いてもらうようにしている。記述欄を大きく取れるので、授業の長所や短所、各自の授業への取り組み方など詳しく具体的に書いてもらうことができ、非常に参考になることが多い。そしてその内容を可能な限り、次学期以降の授業へ反映させるよう心掛けている。